

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 製品の名称 | : アルミ箔粘着テープ AT-501 |
| 会社名 | : 摂津工業株式会社 |
| 住所 | : 〒669-1357 兵庫県三田市東本庄字大歳谷 2207-11 |
| 担当部署 | : 本社工場 製品技術部 |
| 電話番号 | : 079-568-2377 |
| FAX 番号 | : 079-568-2375 |
| 推奨用途 | : 金属・プラスチック・フォーム材等の接着や固定 |
| 使用上の注意 | : テープ及び剥離紙による切り傷防止の為、保護手袋着用が望ましい。 |

2. 危険有害性の要約

■ GHS 分類

- 本製品は成形品であり、GHS 分類の対象外(適用範囲外)です。

■ 重要な危険有害性

通常の状態では極めて安定しており、特記すべき有害性は知られていません。

ただし、以下の状況では注意が必要です:

- アルミニウム箔部分は、酸やアルカリと反応して水素を発生し、強力な酸化剤と反応して高熱を発生する可能性があります。
- 製品が燃焼または熱分解した場合、一酸化炭素、二酸化炭素、アセトアルデヒドなどの有害ガスが発生する可能性があります。
- アルミニウムが粉塵または微細なチップ状になった場合、水と接触すると可燃性ガス(水素等)を発生する可能性があります。

■ 注意書き(安全対策)

- 熱、火花、裸火、高温物などの着火源から遠ざけてください。
- 酸、アルカリ、強力な酸化剤、水との接触および多湿状態での保管は避けてください。

■ 特有の危険有害性

- 通常の状態では特記すべき有害性はありませんが、加熱・反応時には有害性が生じる可能性があります。

■ 法令に基づく有害物質の含有状況

以下の法令に定める特定物質・指定物質は指針値を超えて含有していません:

- 労働安全衛生法(製造禁止物質・表示義務物質)
- 毒物及び劇物取締法(毒物・劇物・特定毒物)
- 化学物質排出把握管理促進法(第1種・第2種指定化学物質)
- オゾン層保護法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、化学兵器禁止法

また、国土交通省告示のホルムアルデヒド発散建築材料は使用していません。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区分 : 混合物(以下に掲げる化学物質からなる成形品:構成比は全体での重量%)
(剥離紙を除く)

(1) 基材

| 一般名又は化学名 | CAS 番号 | 構成比(%) |
|-------------------------|-----------|--------|
| アルミニウム及びアルミニウム合金箔(1N30) | 7429-90-5 | 74 |

(2) 粘着剤

| 一般名又は化学名 | CAS 番号 | 構成比(%) |
|------------|--------|--------|
| アクリル系樹脂粘着剤 | 非公開 | 26 |

「非公開」部分は「メーカー提供情報に基づく。」

4. 応急措置

通常の使用では暴露の可能性は低いですが、以下の状況では適切な応急措置を講じてください。

■ 吸入した場合

- アルミ粉塵を吸入した場合は、直ちに新鮮な空気のところへ移動し、安静・保温に努めてください。
- 必要に応じて、速やかに医師の診察を受けてください。

■ 皮膚に付着した場合

- アルミニウム切粉・研磨粉が皮膚に付着した場合は、石鹼と水またはぬるま湯で十分に洗浄してください。
- 製品を加熱した状態で取り扱った際に、刺激や発赤が見られる場合は医師の診察を受けてください。

■ 目に入った場合

- アルミ粉塵が目に入った場合は、直ちに清浄な水で十分に洗浄してください。
- 眼球損傷の恐れがあるため、速やかに医師の診察を受けてください。

■ 飲み込んだ場合

- 誤って飲み込んだ場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

5. 火災時の措置

■ 適切な消火剤

- 泡消火薬剤、乾燥砂が有効です。
- アルミ粉塵やチップ状のアルミが発生しない状況では、粉末消火剤や炭酸ガスも使用可能です。

■ 使用してはならない消火剤

- アルミ粉塵やチップ状のアルミが存在する場合は、水、粉末消火剤、炭酸ガスの使用を避けてください。

■ 特有の危険有害性

- 熱、火花、火炎により発火するおそれがあります。

- 消火後に再び発火する可能性があります。
- 火災時には、刺激性・毒性・腐食性のガス(CO、CO₂、アセトアルデヒド等)が発生する可能性があります。

■ 特有の消火方法

- 危険がなければ、火災区域から容器を移動してください。
- 移動できない場合は、梱包容器および周囲に散水して冷却してください。
- 容器内に水を入れしないでください。
- 消火後も、大量の水で十分に冷却することが重要です。
- 消火活動は、安全な距離から行ってください。

■ 消火を行う者の保護

- 空気呼吸器、耐火服などの適切な保護具を着用してください。

6. 漏出時の措置

■ 漏出の可能性

- 本製品はテープ状の成形品であり、液状物質のような漏出はありません。
- ただし、散乱した場合には以下の対策を講じてください。

■ 人体に対する注意事項

- 床面などに散乱すると滑り災害の原因となるため、速やかに掃き集めてください。

■ 保護具および緊急時措置

- 保護手袋を着用してください。
- 状況に応じて、保護眼鏡の着用が望ましいです。

■ 環境に対する注意事項

- 外部への散乱が懸念される場合は、吸収材や囲いを用いて飛散を防止し、封じ込めてください。

■ 回収・浄化・二次災害防止策

- 散乱物はすべて回収し、廃棄物として適切に処理してください。
- 処理にあたっては、関連法令および地方自治体の基準に従ってください。

7. 取扱い及び保管上の注意

■ 取扱い

[技術的対策]

- 製品の加工時に切粉が発生する場合は、粉塵が堆積・飛散しないよう管理してください。
- 必要に応じて「第8項:ばく露防止及び保護措置」に記載の保護具を着用してください。

[安全な取扱い]

- テープおよび剥離紙による切り傷防止のため、保護手袋の着用が望ましいです。
- 床面に製品や剥離紙が散乱すると滑り災害の原因となるため、こまめに清掃してください。
- 着火源(熱、火花、裸火、高温物)から遠ざけてください。
- 加熱により臭気が発生する場合は、適切な保護具(空気呼吸器等)を着用し、十分に換気してください。
- アルミ粉塵やチップ状のアルミが発生するような作業は避けてください。

[接触回避]

- 酸、アルカリ、強力な酸化剤、塩化物等との接触を避けてください。

[衛生対策]

- 取扱い後は手洗いを徹底してください。
- 作業中の飲食・喫煙は避けてください。

■ 保管

[安全な保管条件]

- 水との接触、高温・多湿、直射日光を避けて、常温常湿の場所に保管してください。

[容器・包装材料]

- 保管時は、ポリ袋や段ボールケース等に収納することが望ましいです。

8. ばく露防止及び保護措置

■ 設備対策

通常の使用では特別な設備対策は不要です。ただし、粉塵やヒュームが発生する作業環境では、以下の基準を超えないよう局所排気装置等を設置してください。

| 規格・機関 | | 対象物質 | 許容濃度 |
|---------------------|--|----------------------|---|
| 日本産業衛生学会 (2019年) | | アルミニウム(第1種粉塵) | 吸入性粉塵 0.5mg/m ³ 総粉塵 2.0mg/m ³ |
| ACGIH (2024年) | | アルミニウム金属及び 不溶性化合物 | YLV-TWA:1.0mg/m ³ (呼吸性画分) |
| 米国 OSHA (PEL) | | アルミニウム粉塵 | 全体濃度:15.0mg/m ³ 呼吸可能:5.0mg/m ³ |
| 米国 OSHA (PEL) | | アルミニウムヒューム | 5.0mg/m ³ |

■ 個人保護具

| 保護対象 | 推奨保護具 |
|------|---------------------------|
| 呼吸器 | 粉塵や微細チップが存在する場合、防塵マスクを着用 |
| 手指 | 保護手袋を着用(切り傷・刺激防止) |
| 眼 | 飛散の恐れがある場合、保護眼鏡またはゴーグルを着用 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|------------------|------------------------------|
| 形状 | 固体のテープ状物 |
| 色 | 銀白色 |
| 臭い | アクリル系粘着剤特有のわずかな臭い |
| pH | 該当なし（固体製品のため） |
| 融点・凝固点 | アルミニウムの融点：660℃ |
| 沸点・沸騰範囲 | アルミニウムの沸点：520℃ |
| 引火点 | アクリル系粘着剤引火点：約300℃（粘着剤部分に関して） |
| 燃焼または爆発範囲(上限/下限) | 該当なし |
| 蒸気圧 | 該当なし |
| 蒸気密度 | 該当なし |
| 比重(相対密度) | データなし（参考:アルミニウム:2.71） |
| 溶解度 | 水に不要 |
| n-オクタノール/水分配係数 | 該当なし |
| 自然発火温度 | アクリル系粘着剤：約450℃ |
| 分解温度 | アクリル系粘着剤：約250℃以上 |

10. 安定性及び反応性

■ 反応性

- 通常の状態では安定ですが、アルミニウム粉末が酸やアルカリと反応して水素を発生し、強力な酸化剤と反応して高熱を発生する可能性があります。

■ 化学的安定性

- 常温常湿の通常環境下では安定です。

■ 危険有害反応の可能性

- アルミニウム粉末は、酸・アルカリと反応して水素を発生します。
- 強力な酸化剤との接触により、発熱反応を起こす可能性があります。

■ 避けるべき条件

- 水との長時間接触（特に巻いた状態）により、アルミニウムが反応して発熱する場合があります。
- 高温・多湿・直射日光などの過酷環境。
- 酸、アルカリ、強力な酸化剤、ハロゲン化物、有機溶剤との接触またはそれらの雰囲気中への放置。

■ 混触危険物質

- 酸、アルカリ、強力な酸化剤、ハロゲン化物、有機溶剤

■ 危険有害な分解生成物

- アルミニウム:酸・アルカリとの反応により水素ガスを発生。

- 粘着剤: 燃焼または熱分解により、一酸化炭素、二酸化炭素、アセトアルデヒド、炭化水素ガスなどを発生する可能性あり。

11. 有害性情報

本製品は成形品であり、通常の使用状態では人体への有害性は極めて低いと考えられます。

ただし、以下の状況では注意が必要です。

| | |
|---------------------|--|
| 急性毒性 | 該当なし(成形品として通常の使用において暴露の可能性は低い) |
| 皮膚腐食性/刺激性 | テープや剥離紙の端部で手を傷つける可能性がある他、皮膚の弱い方には刺激を与える場合があるため、保護手袋の着用が望ましい。 |
| 眼に対する重篤な損傷性/ 刺激性 | 刺激性は低いですが、眼に入ると眼球を傷つける可能性があるため、状況に応じて保護眼鏡の着用が望ましい。 |
| 呼吸器感受性/皮膚感受性 | データなし (通常の使用状態では該当事例はなし) |
| 生殖細胞変異原性 | データなし |
| 発がん性 | データなし |
| 生殖毒性 | データなし |
| 特定標的臓器毒性 (単回暴露) | データなし |
| 特定標的臓器毒性 (反復暴露) | データなし |
| 誤えん有害性 | データなし |

12. 環境影響情報

- 本製品は成形品であり、通常の使用状態では環境への直接的な影響は極めて低いと考えられます。

| | |
|---------------------|--|
| 生殖毒性 | データなし (成形品としての使用状態では、該当事例なし) |
| 残留性・分解性 | データなし (構成成分に関する公的データ取得) |
| 眼に対する重篤な損傷性/ 刺激性 | 刺激性は低いですが、眼に入ると眼球を傷つける可能性があるため、状況に応じて保護眼鏡の着用が望ましい。 |
| 生体蓄積性 | データなし |
| 土壌中の移動性 | データなし |
| オゾン層への有害性 | データなし |

13. 廃棄上の注意

■ 残余廃棄物の処理

- 廃棄にあたっては、廃棄物処理及び清掃に関する法律ならびに地方自治体の基準に従ってください。
- 処理は、都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者または地方公共団体が指定する処理機関へ委託してください。

■ 汚染容器および包装材の処理

- 容器は内容物を完全に除去したうえで洗浄し、リサイクルまたは適切に処分してください。
- 処分に当たっては、関連法規制および地方自治体の基準に従ってください。

14. 輸送上の注意

| | |
|-----------|-----------------|
| 国連番号 | 回答せず（危険物に該当しない） |
| 品名（国連輸送名） | 該当せず |
| 国連分類 | 該当せず |
| 容器等級 | 該当せず |
| 海洋汚染物質 | 該当せず |

■ 輸送時の安全対策

- 品質保持のため、輸送中の高温、衝撃、水濡れ（高湿度を含む）を避けてください。
- 製品は適切な包装または梱包を施したうえで輸送してください。

■ 国内規制に関する情報

- 国内輸送に関して規制がある場合は、「15.適用法令」項を参照してください。

15. 適用法令

本製品は成形品であり、以下の法令に基づき適切に管理されています。

なお、構成成分に関しても各法令の規制対象物質は、指針値を超えて含有していません。

| | |
|-----------------------------|--------------------------|
| 廃棄物処理及び清掃に関する法律 | 廃棄物の処理・委託に関する規定に準拠 |
| 労働安全衛生法 | 製造禁止物質・表示義務物質の非該当（成形品扱い） |
| 毒物及び劇物取締法 | 毒物・劇物・特定毒物は含まず |
| 化学物質排出把握管理促進法 （PRTR法） | 規制対象物質は、指針値を超えて含有していません。 |
| オゾン層保護法 | 規制対象物質は使用していない |
| 大気汚染防止法/水質汚濁防止法 | 規制対象物質は、指針値を超えて含有していません。 |
| 化学兵器禁止法 | 規制対象物質は含有していない |
| 国土交通省告示 （ホルムアルデヒド発散建築材料） | 規制対象物質は使用していない |

16. その他の情報

■ 免責事項

- 本 SDS の内容は、現時点で入手可能な資料・情報・データに基づいて作成したものであり、含有濃度、物理的・化学的性質、危険性、有害性に関して保証するものではありません。

■ 使用上の注意

- 記載内容は、通常の手扱いや使用を前提としたものです。
特殊な用途・環境で使用される場合は、適切な安全対策を講じたうえでご使用ください。
- 製品の取扱い、使用、保管、廃棄により生じた損失・損害・費用について、当社は一切の責任を負いません。

■ 改訂および確認

- 本 SDS は、新しい情報に基づいて随時改訂される可能性があります。
最新版かどうかは、当社までお問い合わせください。

■ 作成基準

- 本 SDS は、JIS Z 7253:2019(GHS 第 6 版対応)に準拠して作成しています。